

主 題：祈りの条件

聖書箇所：1 ヨハネの手紙 3 章 21－23 節（新約 p. 429）

☆祈りが神にきかれるための条件

祈りが神にきかれるためには、幾つかの条件があります。どれ程、私たちが真剣に祈ったとしても、また、祈りの内容が素晴らしいものであったとしても、もし、私たちの祈りがその条件に当てはまっていないのなら、祈りはきかれないのです。今日は、私たちが祈りを捧げる時に、どのようなことに気を付けるべきかということについて、一緒に学びたいと思います。

1・罪をきよめる（21 節）

今日の箇所をご覧頂くと、『もし自分の心に責められなければ…』とあります。自分自身の心の状態を、何かの指針としなさいということです。これはどういうことでしょうか？この少し前の 3：19 後半にこうあります。「…そして、神の御前に心を安らかにされるのです。」つまり、神様は、私たちの心に影響をお与えになるのです。ここで「責める」と訳されている言葉は、「（上から）下に」という前置詞と「知る、見分ける」という言葉の合成語です。つまり、神様が、私たちの心の内にある種の「責め」をお与えになるのです。では、どんな時に、私たちの内に「責め」というものがありますか？⇒「罪」を犯した時です。私たちの内に罪がある時に、神は私たちの心に「責め」をお与えになるのです。

詩篇 32 篇 3－5 「私は黙っていたときには、一日中、うめいて、…私は、自分の罪を、あなたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。…私のそむきの罪を主に告白しよう。すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。」10 節「悪者は心の痛みが多い。しかし、主に信頼するものには、恵みが、その人を取り囲む。」。つまり、祈りに必要な第 1 のステップは罪との訣別なのです。だから、罪が解決されていない未信者の祈りは聞かれないのです。また、クリスチャンでも同じです。詩篇 66：18 『もしも私の心にいだく不義があるなら、主は聞き入れてくださらない。』、ヤコブ 5：16 『…あなたがたは、互いに罪を言い表し、…義人の祈りは働くと、大きな力があります。』皆さんは如何ですか？本当に罪が解決されていますか？もし、そうでないなら、ここで言われているように、まず、罪を神の前に告白することです。

ここで、『大胆に』と訳されています言葉は「全ての」と「語る（こと）」の合成語で、「遠慮なく自由に語る」という意味なのです。皆さんも経験があるでしょう。この人の前だと緊張して話せないと、しかし、ここの言葉はそういった状況ではなく、言うべきことを全て語るができる。だから「大胆に」と訳されているのです。本当に罪が解決されているクリスチャンは、どんなことでも神様に祈り求めることができるのです。もし、皆さんが今、神様の前に悔い改め、告白しなければならない罪があるなら、それができないのです。後ろめたい思いがあるからです。「祈ってもきかれるのかな～」という疑いや迷いがあるのです。というのは、その前に自分が神様の前にしなければいけないことを自分の心のどこかで知っているから！心に責めがあるのです。

2・神に従い続けること（22 節）

また、第 2 番目に教えられていることは、私たちが神様に従い続けることです。ここの『神の命令を守り』とか、『神に喜ばれることを行なっているから』とは、どちらも直説法現在能動態が使われており、継続を表しています。

こんな方が時々いらっしゃいます。何かの祈りの課題がある時だけ、熱心に何かをしようとするのです。「神様、私は今、頑張って～しています。だから～してください。」、叶えて欲しい祈りがある時だけ熱心に祈って、神様を思うのですが、普段はそうでもない…。そして、その時期が終わったら、またいつもの生活に帰ってしまいます。

ここで教えられていることは、あなたが神様に喜ばれることをしたら、それに見合う願いを叶えてあげよう、といったことを教えているのではない。いつもいつも神様に従い続ける！そうすれば、『求めるものは何でも…いただくことができます。』。ここでも、「いただくことができる」と訳されている言葉は、直説法現在能動態が使われており、いただき続けられるという意味です。また、「求める」と訳されている所は、現在接続法（仮定法）が用いられています。つまり、もし、皆さんが求め続けるなら（1 度や短期間ではなく）与えられる、という意味です。⇒参考：マタイ 7：7－12。

また、真に救われているクリスチャンは、「神の命令だから守る」というような、ある意味で消極的

な従順だけでなく、積極的に神に従う＝つまり、神に喜ばれることを率先して行ない続ける！このような者は、間違いなく自分の願いよりも神のみこころを優先します。神様のみこころがなされることを何よりも願っているからです。だから、このような者の祈りは聞かれるのです。⇒参考：ピリピ 2：13 「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださるのです。」。神が私たちに歩むべき道を示してくださるのです。

3・ 他の人の必要のために祈ること (23 節)

ここで教えられていることは、私たちが互いに愛し合うことです。それを祈りに適用するなら、他の人のために祈るということです。祈りの場合、特に切羽詰った時に、ありがちなのは、自分のことだけを必死に祈ってしまうということです。

ここで書かれている「神の命令」は単数形が使われています。そして、22 節では複数形が使われています。確かに、主が私たちに与えてくださった命令はたくさんあります。しかし、それらは要約することができました。⇒参考：マルコ 12：28－34 など。

つまり、「イエス・キリストを信じる」とことと「人を愛する」とことの二つは、決して全然違う二つの命令ではありません。これは特に、ヨハネの強調点です。例えば、1 ヨハネ 2：3－6，9・3：14－15・4：7－8。もし、私たちが本当に信じているのなら、必ず「神と人を愛する」ことができるはずだと言います。なぜなら、神がそう約束し、神が私たちを変え続けていってくださるからです。この『キリストの御名を信じ』と書かれている言葉は、アオリスト接続法（仮定法）つまり、時制については何ら触れられていない（行為のみ、反復や継続等は関係なし）のです。しかし、私たちには分かります。まず、神を信じ（＝信仰が与えられ）、その時以降、行ないが伴う（＝神が私たちを変え続けてくださる）だと。

もし、あなたがこれらの条件に当てはまっているなら、必ず祈りは聞かれます。誰かがこんなことを言いました。「サタンは、私たちの骨の折れる仕事を笑い、私たちの知恵を馬鹿にする。しかし、私たちが真の祈りを捧げる時に恐れおののく。」と。

皆さん、自分の祈りは必ず神が聞き入れてくださる、という確信があるでしょうか？今学んだこれらの条件にかなっているなら、その祈りは神に受け入れられます。祈ることが自分の喜びとなっているでしょうか？平安が与えられているでしょうか？もしないのなら、問題はあなた自身にあります。神への信頼こそが鍵です。

真の信仰者として、大胆な祈りを捧げるものとなるように、神に変えていただきましょう。